

2021
1
Vol. 55

社会福祉法人すこやか福祉会

発行日: 2021 年 1 月 1 日 第 55 号

本部事務局 住所: 〒120-0023

東京都足立区千住曙町 4-16

TEL: 03-5813-9251

住みなれたまちで

謹賀新年



二〇二一年の新春を迎えるにあたり、
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

あけましておめでとございます。

新年をむかえるにあたり謹んでご挨拶を申し上げます。旧年中は今まで経験したことがない生活が変化する中、多大なご協力を賜り心からお礼を申し上げます。混乱、不安が大きくなる日々が続きましたが、気がつけば徐々に新しい生活に対応し、取り組みも一つ一つ前に進んでいております。入所施設では、ズームでの画面越しの面会なども今までにない初めての経験でした。そして、例年と違うと感じる新年ですが、人と人とのつながり絆の大切さを再認識し、当たり前前大切なを感じる年の始まりではないでしょうか？今年も感染状況は続くと思われ、私たちすこやか福祉会は、感染症や災害が発生した場合でも事業が継続できるように日頃からの対応力の強化をさらに図っていく、利用者に必要なサービスが安定的、継続的に提供できるように職員一丸、協力し合い取り組んでいきます。

さて、今年も介護報酬改定の年です。自主支援や重度化防止に重点が置かれていますが、前回の改定に引き続きさらに複雑な内容になり、報酬単価も引き下げられる厳しい状況が予測されます。介護・福祉人材の確保の困難さは続いています。1丁の活用をはじめ業務の効率化を積極的に行い、今まで以上に利用者寄り添い、福祉本来のやりがいにつながるような取り組みを今年も取り組んでいきます。

昨年、多くの方が「すこやか福祉会を支援する会」に引き続きご入会いただき、また、多くの方から法人へ多額のご寄付をいただきあらためて心から感謝申し上げます。紙面をもってお礼を申し上げます。

今後とも引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。また、新しい年が幸多き実りの年となりますことを心からお祈り申し上げます。

社会福祉法人 すこやか福祉会

理事長 中山 美千代



ご長寿

おめでとうございます

すこやか福祉会を利用されている、ご長寿の利用者さまを
ご紹介させていただきます。

※年齢は 2021 年 1 月 1 日現在です

以下内容にてお話を伺いました。

- ① 出身地
- ② 趣味または好きな食べ物
- ③ 長寿の秘訣

99 歳




グループホーム青戸
深山 静子 様

- ① 東京
- ② 甘いパン、山登り「今でも登る意欲有」
- ③ 出された物は全て食べる。好き嫌いしない。

97 歳



新宿在宅サービスセンター
小林 マツ 様

- ① 千葉県
- ② カラオケ・ダンス
- ③ のんきに暮らしてきたことかな。
好き嫌がなく食事をたくさんいただきます。

100 歳



新宿在宅サービスセンター
寺島 はな 様

- ① 千葉県
- ② スポーツ観戦
- ③ 一人一人違うので一概に言えません

98 歳




新宿在宅サービスセンター
古澤 澄子 様

- ① 東京都
- ② クラフト・手先を使うこと
- ③ よく働くこと！

100 歳



ファミリーケアたかの
村田 かよ 様

- ① 千葉県
- ② 50 年前から森進一のファン
- ③ 「若い頃いっぱい働いていたから、いま体が丈夫なのかな」

すこやか福祉会を支援する会主催
すこやか作品展
選考結果発表！

「第 9 回すこやか作品展」入選作品の選考を 12/3 (木)の運営委員会にて行いました。

今回は、新型コロナ感染症の影響のため、例年の作品展が開催されず、出展数(団体 12、個人 10)も少ない結果となりました。出展作品が少なかったこととコロナ禍の中での作品作りを進めていただいたことを考慮して、団体については入選作品なしで、全事業所に「優秀賞」を贈ることとしました。また、個人作品については、「最優秀賞」該当者なしとし、「優秀賞」3作品としました。



76 人の高校生が初めて ZOOM で介護体験！

CMH(協議会ケアワーカー魅力発信委員会)では介護職の魅力発信と法人の介護人材確保の発展のため、高校生を対象にした介護一日体験を行っています。今回はコロナ禍の影響を考慮して初めてオンラインでの開催を行い、8月、9月を合わせて76人の高校生が参加しました。

初めての WEB 開催ということもあり当初、参加者には戸惑いもありましたが時間が経つにつれて緊張感がほぐれていき、真剣な眼差しで積極的に参加している高校生たちの姿勢は、明るい介護職の未来を期待させるものでした。企画では世間一般の介護職に対するイメージと今後の展望について、実際に職員が行っている一日の業務の流れや事業所の雰囲気などを豊富な資料と共に動画で紹介。後半には参加者と利用者様が直接対話をできる機会を設け、高校生が普段から感じていた介護に対する率直な疑問や意見を共有しました。参加者からは「介護という職業を志すにあたって感じていた不安が軽減された」などの感想が寄せられ、介護に対する理解や心持が大いに深まった企画となりました。



【コロナ禍で実感したつながりの大切さ】

介護の仕事は利用者様と直接触れ合うものであるため当初、オンラインの体験では伝わらない部分が多いのではないかという懸念もありました。しかし、機器があれば誰でも気軽に企画に参加できる事や数多くの施設を効率よく紹介できることなどは、まさにオンラインの長所です。むしろ、オンラインでの開催であったからこそ参加する事ができた、という方も沢山いらっしゃったのではないのでしょうか。訪問、オンラインを問わず、今後もより多くの学生との繋がりを広げ、介護の未来を多くの若い人々と一緒に考えていくことの重要性を改めて確認しました。

本部事務局

堀 竜輔



みんなで楽しくクイズに挑戦！

2020 年度 介護活動交流集会

～コロナ禍のデメリットを発想の転換で～



介護職は日々素晴らしい取り組みをしているのに、そのことが世に知られていない。また、同じ介護職間でも互いの事業所の実践をなかなか共有できていない。これが私の悩みであり、協議会や法人としても本来強みである部分を活かしきれない現状だと思いました。

だからこそ、コロナ禍であっても協議会介護活動交流集会という発信する場は閉ざしたくないと強く思いました。さらに、この苦難を行事として「こなす」だけのものにしなくて、集会として集まることができないデメリットを、リモートであれば他法人や一般の人でも気軽に参加できる、職員も自宅にいても参加できると、メリットとして発想転換して運営を考えました。

今回のテーマは 「助け合いから高められた介護の質」

第 17 回となる今年のテーマは、コロナ禍で様々な新しい取り組みが実践され、そして、その実践は「個」で行えるものではなく、必ず人と人とが繋がりがあって行えたものだったと思い「助け合いから高められた介護の質」に決定しました。健和会、すこやか福祉会、アカシア会の 3 つの法人から 11 の代表事業所が選出され、テーマに沿った事例の抄録とパワーポイントを作成していただきました。

運営する中で、最も課題となったことは最優秀の事例を決める投票をどのように行うかでした。集会の時はその場で用紙記入をしてもらい回収していましたが、リモートで紙媒体の投票を行おうとすると、当日に集計が出来ず日をまたいでしまいます。そうすると発表者も参加者も熱が冷めてしまうので、どうにかリアルタイムで行える方法はないかと直前まで検討していました。最終的に ZOOM のチャット機能を使うことでその場での投票を実現できました。集計する事務局員は大変だったと思いますが、続々と打ち込まれる投票の動きが会をさらに盛り上げたと思います。

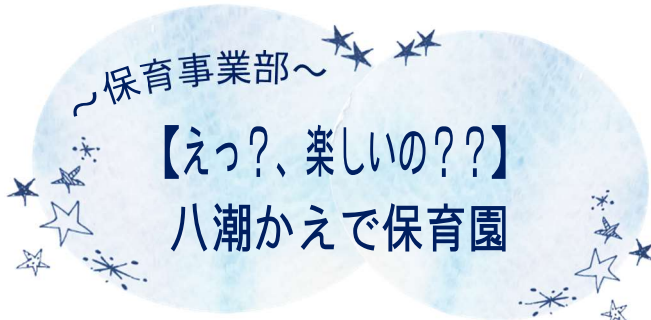
新たな時代に進む大きな一歩に

初めてのリモート運営としては、発表者、参加者、運営スタッフなど大会に関わったすべての人が前向きに、また協力的に支えてくださったので、大きなトラブルも起きず終わることができて安堵しています。さらに盛り上げていく方法や、もっと多くの人に介護の魅力は発信していく方法など、課題は山ほどあると思いますが、新たな時代に進む大きな一歩になったと思います。

湾岸エリアマネジャー

中野 一仁





八潮かえで保育園では、幼児クラスは異年齢保育・乳児クラスは年齢ごとのクラス編成になっています。園庭では、それぞれの年齢の子どもたちが、お互いに関わりあいながら遊ぶ姿が見られます。

先日、3歳児の男の子2人が、砂場で川作りをしていました。2人で、砂を掘って川を作る係・水を運んで流す係と、役割を分担して遊んでいました。そこへ、砂場に来た川と池を見つけた1歳児の子たちが、「わあ〜」とやって来て、池の中に入ってバシャバシャと水しぶきを上げて遊び始めました。

「ちょっと〜やめてよ…」と、3歳児さんが声を掛けますが、1歳児さんたちは「キャッキャ」と声を上げて楽しそうです。そして、次々に1歳児さんがやって来ました。



「川作ってるのに…」と、3歳児さん。そこで、「みかん組さん(1歳児クラス)楽しそうだよ。〇〇くんたちが作ってくれた川が、すごく楽しいみたいだね」と保育士が声を掛けると、「えっ?! 楽しい?? ぼくたちが作った川で遊ぶの楽しい??」と驚いていました。そして、自分もしゃがんで小さい子たちの顔を覗き込んでみると…「本当だ!! 笑ってるね!! じゃあ、ぼくも△△くんとお水運んでくるね!!」と、それまでの困惑していた表情から、パあ〜と明るく自信のついた表情に変わりました。



そして、意気揚々とバケツを手にして、何往復もお水を運んでいました。最後は、1歳児さんと一緒に、自分たちの作った川で、水遊び&泥遊びを楽しんでいました。自分とは違う相手の気持ちに気付き、一緒に楽しめる子どもたち。素敵だなと感じた一コマでした。

総主任 八潮かえで保育園

吉澤 木綿子

葛飾やすらぎの郷 さんま大会



2020年10月19日・20日の2日間に分けて葛飾やすらぎの郷では毎年恒例の「サンマ大会」を開催しました。玄関出入り口横のスペースを使い炭火で焼く絶品サンマは入居者さんにとって、秋の味覚を堪能できる楽しいイベントの一つです。通常であれば1階でサンマを焼く場面やにおいを体験してもらい、そのまま1階ダイフロアで昼食として食べてもらう企画。しかし今年はコロナ感染予防のためデイの利用者さんとの接触を避けており、1階に降りることが難しい。どうすればよいか…。

試行錯誤の結果、ビデオカメラで撮影しそれを2階、3階フロアに生配信できないか?と考えました。50mのケーブルでカメラとフロアのプロジェクターを接続しスクリーンに映す事に成功、また会話もできるようにパソコンでZOOMを繋ぎ演出、喚起のため開けている窓からほんのりサンマを焼く匂いもたちこめ皆さんに喜んでいただけました。また沢山のご家族の方々にもボランティアで協力いただき、炭の火おこしから100人分のけんちん汁作り、事前に屋上で入居者さん達と採ったサツマイモも一緒に焼くことが出来ました。

今年はコロナで出来ないかも…あらゆる所で中止となるイベントが相次ぐ中、それでも出来ることはないか?知恵と熱意と協力で新しい方法を模索し実行する、入居者さんとご家族の理解と協力、職員達のみなざる活力あつての葛飾やすらぎの郷です。

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
施設長 天野 義久



通所事業所の 取り組み



介護保険の改定で自立支援の取り組みが目されたのと同じ頃から、デイの利用目的も機能維持、強化が多くなっていきました。『在宅生活』を見直し、生活を続ける為の評価を意識していくように転換していきました。

どんな動きも足がどれだけしなやかに使えるかで安定さが変わってきます。運動の中で靴下を脱ぎ足の指を使うプログラムを導入しましたが、足が冷たく、靴の形に固まっている方がとても多く、足を温めながら指が開くように職員が触れながらケアをしていきました。

ストレッチソックスを見つけてからは朝来所してすぐに履き替えて運動をするようにしました。指が開くようになると



歩行に安定感が増し、転倒しそうな場面が減りました。また、車椅子使用の方が歩行を始めたり、リフト浴での入浴が、跨いでの入浴にプラン変更になる方も出てきました。

しかしそれでも活動が上向きに変化しない方々がいるので、看護職と情報共有を繰り返し、心肺機能向上に取り組み始めました。円背の状態から背筋を伸ばし深呼吸をする為に、床にジョイントマットを敷き床に寝てのストレッチでリラックスを導き心臓を手足の指先と同じ高さにして血流を流しやすくしました。床に大の字に全身を広げられるようになると、ご利用者様も「気持ちいい」と深い呼吸が確保でき顔色が良くなっていきました。身体も柔らかさが出てきてご自分でできることが広がっています。

目覚めているか、身体は硬くないか、温まっているかを確認しながら心地よく動くことを共有していく中で、各事業所からも機能向上の報告が増えています。

現在は「背面開放」を学び体幹や姿勢を崩させない、長時間の座位で身体を硬くさせない取り組みを目指しています。

デイサービスセンター采女の里
所長 吉井 暁



すこやか福祉会 公式キャラクター決定!!

すこやか福祉会の広報委員会では、法人のブランディングの観点から、公式キャラクター制作を発案し、職員投票によって決定することとしました。その結果、16 作品がエントリーし、広報委員によって 5 作品が選出され、職員投票により下記の『すこふくちゃん』が選ばれました。このキャラクターは特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷の天野 義久さんがデザインされました。今後はホームページを始め、各種広報媒体にて登場します。ご愛顧をお願いします。



名前：すこふくちゃん

性格：穏やかな癒し系

特徴：翼はやすらぎの郷の南京はぜ。

フォロっホーとしか話しません。

デザインの経緯：

モデルのフクロウは「世間に明るい」「先を見通す力がある」という意味合いがあります。また、すこやか福祉会のイメージカラーである緑が使用されています。